

## B A H D

2022. 4. 26

「B A H D」とは、Bullying（いじめ）、Abuse（虐待）、Harassment（ハラスメント／嫌がらせ）、および Discrimination（差別）の頭文字であり、個人の人権や尊厳を不当に侵害する行為全般を指す。このことを最近知った。これらに対する世の中の認知と理解、および対応が進んでいる。この4つは、互いに関連性を持ちながらも重複する点が多い。子どもを相手にし、子どもと同じ空間で過ごす教員は、遅れをとらないように勉強しなければならない。

Bullying は、権力や力によって立場の弱い人間を脅し、傷つけることであり、日本語ではいじめに相当する。内容的には3つある。身体的いじめ、精神的いじめ、社会的いじめである。

Abuse は、誰かを不当に、残酷に、暴力的に扱うことであり、日本語では虐待と訳されることが多い。タイプ別に4つある。身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクトである。ネグレクトとは、育児や監護の放棄である。高齢者や障がい者に対しては、これら4つに経済的虐待が加わる。

Harassment は、不快な言動や圧力をかけることで、誰かを悩ませたり、心配させたりすることを指す。日本では、ハラスメントという用語のままで、すでに浸透している。地位や立場を利用した嫌がらせも含まれる。ハラスメントは、指導や育成とは異なった文脈で行われることが多い。類別すると、身体的ハラスメント、性的ハラスメント、心理的ハラスメントなどがある。

Discrimination は、特定の個人や集団を他のものと公平に扱わないことである。日本語では、差別に相当する。差別は、性差別、人種差別、宗教差別、障がい者差別、L G B T Q差別、能力差別など、様々な要因に基づいており多様な形態をとる。

教育の場である学校では、いじめはだめ、虐待もだめ、ハラスメントや嫌がらせもだめ、差別もだめと立場や指導は一貫している。子どもたちも、この4つはすべてよくないことであり、だめなことは分かっている。だからといって、「やめましょう」だけでは教育とは言えない。指導にはならない。

4つともに、それぞれ分類することで理解が進みやすくなる。具体的な場面をイメージしやすくなる。また、なぜいじめてしまうのか、虐待の背景にあるものは何か、どうしてハラスメントや嫌がらせが起こるのか、差別の根っこにあるものは何かなどについて考えることが必要になる。これは人間というものを知ることにもつながる。それが教育であろう。

もはや学校は、B A H Dを避けて通ることはできない。そうであるならば、学校自らが主体的に取り組んでいくべき事柄である。突き詰めていくと、教員が生徒に、どんな人になってほしいと考えているのかという点にたどり着く。そう考えると、重要度の高さに気づかされる。